

上川管内農業法人ネットワーク通信 「あぐり Corp.」



2017
春号

発行責任者: 上川管内農業法人ネットワーク会長 中原 浩一
発行元: 上川農業改良普及センター

通巻20号(2017年3月)

上川管内農業法人ネットワーク 「通常総会・特別研修会」が開催されました



3月2日に第14回通常総会・特別研修会がアトホテル旭川で開催されました。本行事にはネットワーク会員を中心に47名の参加者がありました。



特別研修会の講師、左から工藤氏、森氏

【通常総会】
総会に先立ち、中原会長より一年間の活動の参加協力についてお礼の言葉がありました。
議長に(有)多田農園の多田氏が選出され議事に入り、議案審議されました。事業報告及び決算報告、事業計画案及び収支予算案については満場一致で承認されました。

【特別研修会】
通常総会の終了後に、特別研修会が開催されました。今回の研修会は1月23日に開催された「農業法人等スキルアップ研修会」の第2回目に位置づけられており、今回は先進的な法人経営やマーケティングに取り組んでいる農業法人代表や有識者により講演されました。

①講演「釈迦のりんご園の取り組み」
(株)釈迦のりんご園

代表取締役 工藤 秀明氏

青森県平川市広船地区でりんご農家を営む工藤代表は三代目。

りんごづくりでは、オリジナル有機質肥料等を活用して品質第一の栽培を実践しています。青森県りんご品評会において農林水産大臣賞を受賞し、個人の部全県第一席など親子三代に渡りトップの座に上り詰める快挙を達成しました。

りんご園は効率的な経営管理や販売力強化を目指して平成24年に法人化、独自の販路開拓とマーケティング手法により4年間で売上は4倍になりました。

自社の顧客層は品質を最優先で食材を購入する層であり、日々のたゆまぬ技術向上で顧客の期待に応えていきたいと工藤代表は語っていました。



②講演「アメリカ北部農業との比較

による北海道農業の可能性」

(作家・エッセイスト 森久美子氏)

札幌在住の作家の森氏は「食」や「農」を主題にしたエッセイの執筆でも知られています。平成22年から農水省の政策審議会の委員としても活動されてきました。

日本の農政やTPPについて意見を云うためにはアメリカの事情を知らねばと

会員紹介

和寒町「ソラナファーム」
株式会社

ソラナファーム(株)のSOLANAとは、スペイン語で「ひなた」を意味します。「お日様に向かつてグングン伸びる二葉の様に、多くの子供たちが元気になる作物を創りたい」をスローガンに平成24年、それまでの個人経営から農業生産法人に移行しました。

総面積は56ha。水稲・小麦・大豆・かぼちゃ・キャベツを生産しております。農作業は夫婦二人、両親、パート、派遣社員など。収穫等、繁忙期には20人以上の人が作業することもあります。

弊社がある和寒町は粘土質の土壌が多く、夏は昼夜の寒暖差が激しく、冬は雪がともも多い地域です。この風土がかぼちゃを甘くし、キャベツを雪の下に貯蔵することを可能にしてくれています。

おかげさまで、かぼちゃやキャベツは栽培契約を結び、ホームページからのお客さんへ届けています。26年冬に渡米、北部の畑作地帯を視察しました。アメリカの有識者や農家との意見交換では日本との意識差を痛感、改めて日本の農業者が食や地域の危機感を国内に向けて発信していく重要性を感じたと話していただきました。



代表取締役 濱田敏史氏
法人設立 平成24年3月
資本金 500万円
事業内容 野菜・水稲・畑作物の生産、販売

お客様も少しずつではありますが増えていく状況です。多くのお客様に喜んでいただくために、また子供たちのため地球環境保全も視野に入れて、26年にJIGA Pを、続いてかぼちゃで特別栽培農産物と有機認証を取得しております。今後は、お客様・お取引先の皆様が、弊社のかぼちゃやキャベツ、さらには加工品を、格別美味しい、嬉しい、ワクワクする、もしくはホッとすると感じていただけるような様々な試みをし、栽培技術はもちろん、個人または会社としてもレベルアップできるように、日々精進していきたいと考えております。

編集後記

朝晩は未だ氷点下が続きますが、日中の陽射しに春を感じる日が増えてきました。穏やかな農耕期を期待します。(K・T)

